

タイトル「2023年度大学院スポーツ科学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院スポーツ科学研究科」 シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー							
科目名	スポーツリハビリテーション特論						
担当教員	小松 泰喜						
対象学年	1年,2年						
曜日・時限	木 3						
講義室	1303						
授業形態	講義						
科目大分類							
科目中分類							
科目小分類							
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2. 知識基盤社会の構成員として自らの専門における研究能力のみならず、確かな教養と高い倫理感を持ち、論理的な思考力を有し、スポーツにおける競技スポーツの位置づけ及び意味に対して自らの意見を説明できる（40%）。 DP3. スポーツに携わる中で、自らが発見した問題や直面した問題に対し、専門的な知識・技能を用いて主体的にかつ協働して体系的な解決策を見だし、それを遂行することができる（60%）。						
教員の実務経験	平成13（2001）年より公益財団法人日本体育協会公認（現公益財団法人日本スポーツ協会公認）としてアスレチック・トレーナーの資格を保有し、日本水泳連盟下の水泳トレーナー会議やJOCスポーツ科学委員（ボクシング競技）、日本ボクシング連盟スポーツ科学委員として活動をし、多くのアスリートのケガ・故障の予防や競技復帰に取り組んできている。中でもアスレチックリハビリテーションにおいては医療の知識を基盤とし、多様な知識を持ち合わせ、より具体的なプログラムの立案と競技復帰への過程としての実践から、授業ではケガ・故障の機序を動作学的に思索し、その動作の制御や学修に対する考察を行い、予防策及び適切な競技復帰への過程を学修します。（第6回、7回、8回、9回、10回、11回、12回）						
成績ターゲット区分							
科目概要・キーワード	リハビリテーションとは、基本的には身体の機能回復を示すが、アスリートの場合にはその競技に復帰するためのリハビリテーションのことをアスレチックリハビリテーション（以下「アスリハ」という）と呼んでいます。一方、競技スポーツでは、「予防に勝る治療はない」と言われ、そのために必要な知識として、発生機序やそれまで取得した動作の再獲得を含む、高次なスポーツリハビリテーション（以下「スポリハ」という）という概念が必要となります。特にアスリートはレクリエーションや普段の身体活動と異なり基礎体力が高く、その競技に対する考え方や位置づけ、競技スポーツに関連したライフスタイルが特有であることから、ケガ・故障であっても競技力向上を目指す必要があり、動作の再獲得に向けた精緻な測定・評価に基づく様々な復帰手段や具体的な予防のための方法論の学修が必要とされます。本特論では資料・視聴覚教材等の他、動作学的手段を用いた研究手法によるスポーツ科学研究について学修します。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するため、オンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■（キーワード）ケガ・故障の発生機序、動作の習得過程の解明、競技力向上、競技復帰						
授業の趣旨	■副題 アスリートやスポーツ選手のケガ・故障は、外傷による直達外力による受傷の他、継続的に外力が繰り返され、その機能に綻びが生じる金属疲労に例えられる、いわゆる使いすぎ症候群がその大きな原因とされています。したがって、ケガ・故障の発生機序はその原因によって、その後の競技復帰の方法論が異なります。また、その発生は複雑な機序であることは言うまでもなく、多くのケガ・故障について十分な理解がなされているわけではありません。しかしながら競技スポーツとしてスポーツ科学を基盤とするならば、その具体的な発生機序の解明に取り組み、様々な手段やより具体的な方法により、動作の再獲得とさらなる競技力向上を目指した動作の習得過程を導き出すための実践、そのうえで競技復帰を目指す支援の方法を検討できることが重要となります。また、動作の構築・再構築が科学的な背景や根拠に基づき、尚且つ結果に結びつくものでなければなりません。 ■授業の目的 その競技スポーツを理解し、発生機序からどのようなケガや故障に対しても、具体的な競技復帰プログラムだけでなくその発生機序の解明から立案する予防の方策、そのための適切な負荷量の設定、プログラムの立案ができるようになることを目的としています。 ■授業のポイント スポーツリハビリテーション（スポリハ）は、スポーツサポートに係るスポーツ指導者が身につけるべき基本的知識だけでなく、コーチング上必要な知識を身につけることを念頭に学修します。						
総合到達目標	■スポリハの概念、対象となるケガ・故障の発生機序とその病態、さらに予防から治療対策までの理解ができる。 ■競技スポーツによるケガ・故障の部位・疾患別の競技復帰のための競技力向上のプログラミングなどを知り、新たな解決方法やコーチングにつながる方策を提案できる。 ■スポーツによるケガ・故障後のトレーニング計画の具体的な立案ができ、実現可能性のある目標を立てることができる。 ・アスリートの競技活動及び競技スポーツで起こるケガ・故障に対し、前提となる発生機序を理解したうえで、動作の再習得から競技復帰に向けた様々な手段及びより具体的な方法論について、実践できる知識を持つこと（第1回～5回） ・競技スポーツを理解した上で、その発生機序からどのようなケガ・故障に対しても適切な動作の再習得、さらに競技力向上を目指すための競技復帰プログラムの立案ができること（第6回～12）。 特殊環境下（低酸素環境等）での競技力向上のために競技復帰プログラムを実施し、スポーツサポートに係るスポーツ指導者がより実践的かつ科学的な知識を身につけるべき指導論を系統立てる（第13回～15回）						
成績評価方法	■研究課題の設定のためのショートプレゼンテーション2回（60%）適応DP-3（評価の観点）定期的な授業の振り返りと研究の進捗度の理解を確認するため、ショートプレゼンテーションによる客観的評価として自己分析を行います。（フィードバックの方法）ショートプレゼンテーションを確認し、自主学習につながるよう指導を行います。 ■授業期間内繰り返したショートプレゼンテーションと、その題材として学修した競技種目・部位疾患別の競技復帰のための競技力向上についてのレポートの提出1回（40%）適応DP-2（評価の観点）授業内にショートプレゼンテーションを実施し、授業の観点から、そのための資料と自身の研究ノートの作成を行うことで普段の授業への取り組みを評価することとする。（フィードバックの方法）プレゼンテーションの発表とその内容の評価を行う。						
履修条件	基本科目の「スポーツ科学総論1」、「スポーツ科学研究法」の単位修得後の履修又は並行して履修していることが望ましい。						
履修上の注意点	特になし						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ケガ・故障後の動作の再習得と競技復帰にむけた競技力向上の考え方（ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけることから、その基礎資料の収集と知識の整理について学修します） ②授業概要 ケガ・故障後の競技復帰として競技力向上の意味を理解し（DP-3）、発生機序の理解とコーチングとしてのスポーツサポートに必要な機能評価の実践からリスク管理の基礎知識とその重要性について学修します。また、普段のトレーニングやその競技特性から競技スポーツの基本的概念（競技・種目特性や動作特性等）についてまとめることができるようにします（DP-3）。また、授業回毎にケガ・故障の発生機序、動作の習得過程の解明、競技力向上、競技復帰のキーワードから、自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）自身の身の回りで起こりえるケガ・故障に対し、その発生機序を理解し、動作学としてその再習得と競技復帰を目指した基本的な概念についてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進捗に則り、自身の研究課題を思索し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめること。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのエクササイズやトレーニング（運動療法）の応用知識① ②授業概要 ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけ、競技復帰のための競技力向上におけるエクササイズの目的や筋力の回復の過程、筋力増強エクササイズの実用知識の整理を行います（DP-3）。また、ケガや傷害からの回復において関節可動域や神経筋協調性に対する基礎知識と具体的なエクササイズについて、競技スポーツでの競技復帰までのプログラムを計画できるよう学修します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）その基礎資料の収集と知識の整理を目的に、学部で学修した予備的知識として特に重要とされる筋や関節、さらに機能解剖学について自身の競技スポーツに置き換え、必要な知識を整理しておくこと。常に研究課題を意識し、授業内では最新の論文を確認し、議論を意識した授業参加に心がけるようにすること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進捗に則り、自身の研究課題を思索し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ケガ・故障後の動作の再習得と競技復帰にむけた競技力向上の考え方（ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけることから、その基礎資料の収集と知識の整理について学修します） ②授業概要 ケガ・故障後の競技復帰として競技力向上の意味を理解し（DP-3）、発生機序の理解とコーチングとしてのスポーツサポートに必要な機能評価の実践からリスク管理の基礎知識とその重要性について学修します。また、普段のトレーニングやその競技特性から競技スポーツの基本的概念（競技・種目特性や動作特性等）についてまとめることができるようにします（DP-3）。また、授業回毎にケガ・故障の発生機序、動作の習得過程の解明、競技力向上、競技復帰のキーワードから、自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）自身の身の回りで起こりえるケガ・故障に対し、その発生機序を理解し、動作学としてその再習得と競技復帰を目指した基本的な概念についてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進捗に則り、自身の研究課題を思索し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめること。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。	2	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのエクササイズやトレーニング（運動療法）の応用知識① ②授業概要 ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけ、競技復帰のための競技力向上におけるエクササイズの目的や筋力の回復の過程、筋力増強エクササイズの実用知識の整理を行います（DP-3）。また、ケガや傷害からの回復において関節可動域や神経筋協調性に対する基礎知識と具体的なエクササイズについて、競技スポーツでの競技復帰までのプログラムを計画できるよう学修します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）その基礎資料の収集と知識の整理を目的に、学部で学修した予備的知識として特に重要とされる筋や関節、さらに機能解剖学について自身の競技スポーツに置き換え、必要な知識を整理しておくこと。常に研究課題を意識し、授業内では最新の論文を確認し、議論を意識した授業参加に心がけるようにすること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進捗に則り、自身の研究課題を思索し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的
回	内容						
1	①授業テーマ ケガ・故障後の動作の再習得と競技復帰にむけた競技力向上の考え方（ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけることから、その基礎資料の収集と知識の整理について学修します） ②授業概要 ケガ・故障後の競技復帰として競技力向上の意味を理解し（DP-3）、発生機序の理解とコーチングとしてのスポーツサポートに必要な機能評価の実践からリスク管理の基礎知識とその重要性について学修します。また、普段のトレーニングやその競技特性から競技スポーツの基本的概念（競技・種目特性や動作特性等）についてまとめることができるようにします（DP-3）。また、授業回毎にケガ・故障の発生機序、動作の習得過程の解明、競技力向上、競技復帰のキーワードから、自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）自身の身の回りで起こりえるケガ・故障に対し、その発生機序を理解し、動作学としてその再習得と競技復帰を目指した基本的な概念についてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進捗に則り、自身の研究課題を思索し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめること。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。						
2	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのエクササイズやトレーニング（運動療法）の応用知識① ②授業概要 ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけ、競技復帰のための競技力向上におけるエクササイズの目的や筋力の回復の過程、筋力増強エクササイズの実用知識の整理を行います（DP-3）。また、ケガや傷害からの回復において関節可動域や神経筋協調性に対する基礎知識と具体的なエクササイズについて、競技スポーツでの競技復帰までのプログラムを計画できるよう学修します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）その基礎資料の収集と知識の整理を目的に、学部で学修した予備的知識として特に重要とされる筋や関節、さらに機能解剖学について自身の競技スポーツに置き換え、必要な知識を整理しておくこと。常に研究課題を意識し、授業内では最新の論文を確認し、議論を意識した授業参加に心がけるようにすること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進捗に則り、自身の研究課題を思索し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的						

	資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめること。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
3	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのエクササイズやトレーニング（運動療法）の応用知識② ②授業概要 ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけ、全身持久力の回復やその向上の応用知識の整理を行います（DP-3）。特に、気分や抑うつなど自律神経系の機能を意識し、心拍変動の変化を例えて、身体組成（体脂肪や筋肉量）を理解した上で、競技復帰のための競技力向上によるデモンストラショニングからその管理について学修します。再発予防には、ケガ・故障の概念や外傷予防のための動作の再習得のためのエクササイズのプログラを計画することができるようになることを目指します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）その基礎資料の収集と知識の整理を目的に、学部で学修した予備的知識として特に重要とされる呼吸・循環器系筋のスポーツ生理学について自身の競技スポーツに置き換え、必要な知識を整理しておくこと。常に研究課題を意識し、授業内では最新の論文を確認し、議論を意識した授業参加を心がけるようにすること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
4	①授業テーマ 物理療法と補装具の使用に関する応用知識と最新情報① ②授業概要 ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけ、物理療法の応用知識について学修し、特に温熱や寒冷療法の生理学的な機序を理解します。特に寒冷療法の概念は温度受容器（TRAP）の発見により注目を浴びていることもあり、生理学的理解を深めておきます。また、他の電気療法（電気刺激療法や超音波療法）についても生体への影響について理解を深めること（DP-3）。ケガや傷害に対し、不注意に使用することで生体にどのような影響があるのか、その有効性も含め自身で考えリスク管理の醸成について意識する（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）その基礎資料の収集と知識の整理を目的に、学部で学修した予備的知識として特に重要とされるアスレチックリハビリテーション演習などで経験した電気療法について、実技を含め、理解しておくこと。常に研究課題を意識し、授業内では最新の論文を確認し、議論を意識した授業参加を心がけるようにすること。ケガや故障の特徴を知り、性・年代によって、物理的的刺激が生体に及ぼす影響について医学的知識も整理しておくこと。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
5	①授業テーマ 物理療法と補装具の使用に関する応用知識と最新情報② ②授業概要 ケガ・故障の発生機序を限りなく精緻な手段を利用した方法論から捉え、動作の再習得を競技復帰のための競技力向上の目的と位置づけ、物理療法の応用知識について学修し、ケガ・故障によってはその修復過程において、補助手段が用いられることから、特に鍼・灸・マッサージなどは伝統的な治療手段の可能性について理解します。また、補装具や装具は障害者スポーツの普及から注目を浴びていることもあり、最新の義足事情の理解とその機序について、使用者がその適応に順応することの高度な身体機能について理解する。テーピングの効能なども含めその理解度を高めます（DP-3）。あくまでも治療に対する補助的な手段であることから、その適応について自身の競技特性を含め、より高い効果を引き出す方法について考え、リスク管理の醸成を意識します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）その基礎資料の収集と知識の整理を目的に、学部で学修した予備的知識として特に重要とされるアスレチックリハビリテーション演習などで学修した代替療法を実技を含め、理解しておくこと。常に研究課題を意識し、授業内では最新の論文を確認し、議論を意識した授業参加を心がけるようにすること。ケガや故障の特徴を知り、性・年代によって、物理的的刺激が生体に及ぼす影響について医学的知識も整理しておくこと。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
6	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践と考察（体幹） ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、ケガや故障の中で頸椎捻挫や腰部疾患に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践の検証をします（DP-3）。体幹のケガや故障に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングからリスク管理に基づき、その動作学的解析や生理学的機序からその効果を考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）頸椎捻挫や腰部疾患の病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
7	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践と考察（上肢）-① ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、ケガや故障の中で肩関節前方脱臼や投球障害肩に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践の検証をします（DP-3）。上肢のケガや故障に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングからリスク管理に基づき、その動作学的解析や生理学的機序からその効果を考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）肩関節前方脱臼や投球障害肩の病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
8	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践とその考え方（上肢）-② ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、ケガや故障の中で外傷性肘MCL（内側側副靱帯）損傷や手関節捻挫などに対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践の検証をします（DP-3）。上肢のケガや故障に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングからリスク管理に基づき、その動作学的解析や生理学的機序からその効果を考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）外傷性肘MCL（内側側副靱帯）損傷や手関節捻挫などの病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
9	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践とその考え方（下肢）-① ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、ケガや故障の中で足関節捻挫や膝内側側副靱帯損傷などに対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践の検証をします（DP-3）。下肢のケガや故障に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングからリスク管理に基づき、その動作学的解析や生理学的機序からその効果を考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）足関節捻挫や膝内側側副靱帯損傷などの病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
10	①授業テーマ 競技復帰のための競技力向上によるプログラミングの実践と考察（下肢）-② ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、ケガや故障の中で膝前十字靱帯損傷や大腿筋群内離れなどに対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践の検証をします（DP-3）。下肢のケガや故障に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングからリスク管理に基づき、その動作学的解析や生理学的機序からその効果を考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）膝前十字靱帯損傷や大腿筋群内離れなどの病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
11	①授業テーマ 競技復帰のための競技力向上によるプログラミングの実践と考察（下肢）-③ ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、ケガや故障の中で扁平足（へんぺいそく）障害や脛骨疲労骨折などに対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践の検証をします（DP-3）。下肢のケガや故障に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングからリスク管理に基づき、その動作学的解析や生理学的機序からその効果を考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）扁平足（へんぺいそく）障害や脛骨疲労骨折などの病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
12	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践と考察（下肢）-④ ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、ケガや故障の中で足関節捻挫や膝内側側副靱帯損傷などに対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングの実践の検証をします（DP-3）。下肢のケガや故障に対する競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングからリスク管理に基づき、その動作学的解析や生理学的機序からその効果を考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（120分）足関節捻挫や膝内側側副靱帯損傷などの病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめること。 ④復習（120分）スポーツ科学総論1及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめる。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
13	①授業テーマ 競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラムを利用したスポーツリハビリテーションの考察 ②授業概要 メタボリック・シンドローム（内臓脂肪型症候群）による糖代謝や骨格筋の関係や高齢者の介護予防を目的としたスポーツ活動、ウィメンズヘルス（妊婦も含む）とスポーツ活動によるBone Health（骨健康）、学童期（児童・生徒）やそれそれに対するスポーツが成長期に与える影響について種々の実践活動とその内容を理解します（DP-3）。特に性・年代別の身体的な特徴とされる動作の学習を考察し、スポーツサポートに必要な機能評価としての動作学的解析や生理学的評価、リスク管理から普段のトレーニングや疾病予防のためのスポーツ・身体活動について考察します（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。

	③予習（１２０分）メタボリック・シンドローム（内臓脂肪型症候群）による糖代謝と骨格筋の関係や高齢者の介護予防を目的としたスポーツ活動、ウイメンズヘルス（妊婦も含む）とスポーツ活動によるBone Health（骨健康）、学童期（児童・生徒）やそれぞれに対するスポーツが成長期に与える影響について、病態の理解と競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについてまとめてくること。また、競技復帰に向けた競技力向上のためのプログラミングについて、基本的な概念を理解しまとめてくること。 ④復習（１２０分）スポーツ科学総論１及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめること。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
14	①授業テーマ 競技種目特性に基づいた競技復帰に向けた競技力向上のプログラミングとスポーツリハビリテーションの考察 ②授業概要 競技復帰に向けた競技力向上のために競技や種目特性の概要を理解し、競技種目における動作学的特徴と計測や評価技術から、研究課題を導き出すことができるようにします（DP-3）。また、自身が専門とする競技スポーツに置き換え、特徴的な動作種目（動作学的特徴）に焦点を当て、必要な体力特性や要素について、計測や評価技術を検討できることが求められます。特にケガや故障を想定し、必要な競技復帰に向けた競技力向上のプログラミングとして、トレーニング要素に注目した計測や評価のための研究実施計画を立てることができるが求められます（DP-3）。自身の研究課題につながるショートプレゼンテーションを実施します（DP-2）。 ③予習（１２０分）多くの競技種目の中で特に特徴的な動作特性（動作学的特徴）や体力特性を計測や評価ができ、種々の競技スポーツに対応した競技復帰に向けた競技力向上のための実践的な競技スポーツ活動をまとめてくること。また、そのための競技復帰に向けた競技力向上のために実践するプログラミングについて併せてまとめてくること。 ④復習（１２０分）スポーツ科学総論１及びスポーツ科学研究法の進行に則り、自身の研究課題を思案し、特別研究Ⅰ・Ⅱなどで実施される予備実験や予備調査の基礎的資料にできるように授業回ごとにその観点をまとめること。常に、研究ノートを意識し、必要事項のメモや振り返りを行い、ショートプレゼンテーションの課題について学修する。
15	①授業テーマ 講義全体（ケガ・故障後の動作の再習得と競技復帰にむけた競技力向上の考え方）を通じて、まとめと研究課題の設定に向けた研究計画書の作成に関するプレゼンテーション ②授業概要 運動器の機能解剖、スポーツ活動によるケガや故障、それに伴う動作学的な計測や評価技術、さらに解析方法とスポーツリハビリテーションの実践について、競技復帰のための競技力向上のプログラミングの構築に対する知識が備わっていることを前提に、競技復帰に向けた競技力向上のために種々の計測技術等を屈指し、リスク管理に基づきプログラミングの実践から、競技スポーツの特性に基づいたプログラミングの解析から実践についての考察学びます（DP-3）。研究課題につながるプレゼンテーション実施し、研究計画の実施を実現可能性の高いものにします（DP-2）。 ③予習（１２０分）運動器の機能解剖、スポーツ活動によるケガや故障、それに伴う動作学的な計測や評価技術、さらに解析方法とスポーツリハビリテーションの実践について、競技復帰のための競技力向上のプログラミングの構築に関するプレゼンテーション資料としてまとめ、発表準備をしてくる。 ④復習（１２０分）プレゼンテーションによる発表内容を踏まえ、自身が取り上げた具体的なプログラミング（ケガや故障に対するケアなどその実施計画）や競技復帰に向けた競技力向上のためのプレゼンテーションの修正を行うこと。
関連科目	スポーツ科学総論１、スポーツ医学特論、運動生理学特論、スポーツバイオメカニクス特論
教科書	
参考書・参考URL	『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト+ワークブック アスレティックリハビリテーション（公益財団法人 日本体育協会）』文光堂 『骨格筋ハンドブック（原書第3版）機能解剖からエクササイズまで一目でわかる』南江堂
連絡先・オフィスアワー	
研究比率	